

あの日から75年 映画は、ヒロシマ・ナガサキをどのように伝えてきたのだろうか？

第14回 被爆者の声をうけつづ

映画祭 2020

新型コロナウイルス感染症対策のために
今回は一日のみ、予約制で開催します。

被爆者の声をうけつぐ映画祭2020・プログラム

会場：武蔵大学 8 号館 8 階武蔵大学50周年記念ホール

完全予約制 新型コロナウイルス感染症対策のため、観客のみなさまにご予約をお願いします。当日券はありません。予約は各プログラム毎、125名までです。予約された方は早めにご来場ください。ご入場の際はマスクの着用、検温、手の消毒などにご協力をお願いします。

プログラム① 午後の部

13:30 入場開始

14:00 開会あいさつ

14:10 『千羽鶴』

15:20 トーク：山口逸郎

15:50 休憩 16:00 『ふたりのイーダ』 17:40 終了予定

★ゲスト：山口逸郎 『千羽鶴』助監督
『ふたりのイーダ』プロデューサー。

劇映画『千羽鶴』（67分）1958年/モノクロ
監督：木村荘十二 製作：共同映画株式会社/広島平和を築く児童・生徒の会

1950(昭30)年、広島の子・佐々木禎子が原爆症で倒れる。鶴を千羽折ると病が治ると聞いて、折り続けた少女と級友たち。やがて禎子は亡くなる。原爆症で亡くなる子どもたちが後を絶たない。級友たちは「原爆の子の記念像」の建立を思い立ち、学校を巻き込んで全国に募金を訴える。この映画は、募金運動中にクランクインし、映画に登場する禎子の家、学校、病院などは、実際に禎子が生活した場所で撮影されたという。ラストも、実際の原爆の子の像建立式典になっている。



劇映画『ふたりのイーダ』（99分）1976年
監督：松山善三 出演：森繁久彌 高峰秀子 倍賞千恵子

松谷みよ子原作を脚色し、被爆の問題をファンタジックに描いた作品。祖父母の家へ里帰りした兄妹は、朽ちた洋館で動き語る不思議な椅子と出会う。椅子は、昔そこに住んでいた少女イーダと混同して妹を可愛がる。イーダは原爆投下の日に、広島に出かけていた。椅子はイーダの死を受け入れられず、広島に向かう。今回は、海外で上映されたバージョンを上映。



プログラム② 夜の部

18:10 入場開始

18:30 『シスターと神父と爆弾』（米）

20:16 トーク：スティーブン・リーパー

21:00 閉会

★ゲスト：スティーブン・リーパー
『シスターと神父と爆弾』の日本語字幕
共同制作者、アメリカ・イリノイ州出身
広島平和文化センター元理事長。
NPO法人Peace Culture Village理事長。
当日は、米国からのリモート出演です。

ドキュメンタリー『シスターと神父と爆弾』（106分）2019年/米国

原題「The Nuns, The Priests, and The Bombs」

監督/脚本/製作：ヘレン・ヤング

日本語字幕：スティーブン・リーパー 澤田美和子

2012年7月。米国最大の核兵器用ウラン貯蔵庫敷地内への侵入事件があった。主犯は82才のカトリック修道女と神父たち。射殺されるかもしれない場所を、4時間も歩き回ったあげくに逮捕される。裁判で明らかになったのは、核施設のずさんな管理実態。米国を震撼させた事件の侵入者たちに、裁判官の投げかけた言葉とは。



完全予約制です。

プログラム毎にご予約を。当日券はありません。
事前に予約されていない方は入場できません。

大人：1,000円 学生・子ども：500円

予約申し込み先

電話：03-6434-9346（共同映画）

090-9855-1135（アリハ 13時～17時迄）

Mail：eigasai@gmail.com

★ご予約は映画祭前日までお願いいたします。

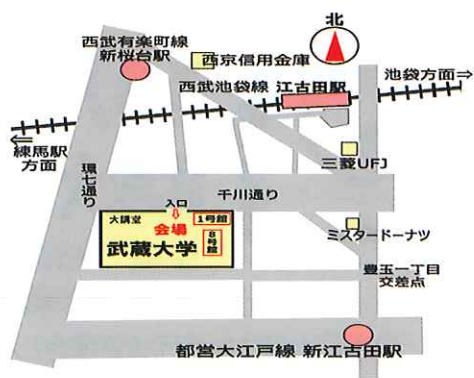
被爆者の声をうけつぐ映画祭実行委員会

ブログ <https://hikakueiga.exblog.jp/>

F・B <https://www.facebook.com/hibakueiga/>

振込先 みずほ銀行練馬富士見台支店（普通）1232039

口座名 被爆者の声をうけつぐ映画祭



西武池袋線 江古田駅から徒歩6分、
地下鉄大江戸線 新江古田駅から徒歩7分
有楽町線 新桜台駅から徒歩5分
有楽町線・西武池袋線 桜台駅から徒歩9分